

平成28年度会長特別タスクフォース

現場イノベーションプロジェクト ～次世代に繋ぐ生産現場のあり方～



幹事長 中村光（名古屋大学）

趣旨



- 土木界では、担い手確保、生産性の向上が喫緊の課題となっており、国交省（i-Construction）や日建連等が対応を進めている。
- 土木学会でも、生産現場の**安全性・生産性の向上**、女性活躍も視野に入れた**働き方改革**をテーマとする会長特別タスクフォースを設置。
- 学会の10の委員会が連携するとともに、外部委員も参加の下、**3つの重点テーマに関するWG**を構成。
- 特に、学会の役割である学術的な面（**技術基準・設計、教育・研究等**）に重点を置き、既存の学会活動も活かしつつ、具体的なアクションを展開。

I. コンクリート構造物の生産性・安全性向上技術(PCa化等)の導入促進

1. 「生産性および品質向上のためのコンクリート構造物の設計・施工研究小委員会」の成果の展開（示方書改訂、全国講習、現場適用へ）
2. プレキャスト化等を先行例とした品質・安全性の向上、現場管理の信頼性向上など付加価値の定量評価法の開発及びそれらの評価を考慮した発注システムのあり方検討

II. ICT・ロボット等、次世代建設技術の実用化・普及を支える研究・教育の拡充

1. 次世代建設技術に関する土木情報学及び建設ロボットの学際的調査研究
2. 「土木情報学」テキスト（編纂中）の発刊、主要大学土木系学科への展開
3. 情報化施工等に関する教育素材（動画等）の収集・作成、講習会等の実施
4. 異業種・海外を含めた学会外との連携強化、先端技術情報の収集・発信

III. 女性や若手、シニアを含めた担い手の確保、土木界の裾野拡大

1. 教育の場との連携（現場見学会、出前授業、教育素材の収集・提供等）
2. 土木界に女性や若手を取り込むための活動（交流イベント等）
3. 土木界における働き方の多様性の紹介による次世代技術者の育成

活動体制

会長特別タスクフォース（親委員会）

委員長：田代民治（会長） **副委員長**：丸山久一（長岡技術科学大）
幹事長：中村 光（名古屋大） **副幹事長**：大内 齊（鹿島）
委員、幹事：テーマに係る委員会の委員長
国交省、JR東、建コン協、日建連、ゼネコン 他

WG1（コンクリート）：中村 光 主査（コンクリート、名古屋大学）

参加委員会：建設技術研究、建設用ロボット、建設マネジメント、
コンサルタント、安全問題研究、土木広報センター

WG2（ICT・ロボット）：蒔苗耕司 主査（土木情報学、宮城大学）

参加委員会：建設技術研究、建設用ロボット、コンサルタント、地盤工学、
安全問題研究、土木広報センター

WG3（担い手確保）：山田久美 主査（教育企画・人材育成、東急ビルティイ）

参加委員会：ダイバーシティ推進、建設技術研究、コンサルタント、
土木情報学、安全問題研究、土木広報センター

活動内容の展開

●「現場イノベーションプロジェクト」シンポジウム

● 土木学会誌6月号で特集記事を掲載

- ◆ 石井啓一国土交通大臣を交えた座談会
「魅力ある土木界・建設現場にするために」
- ◆ 建設産業の近未来のシナリオ
- ◆ 会長TFの活動紹介現場
- ◆ 現場イノベーションのための
土木学会の今後の活動

生産現場は土木の根幹であり、その魅力を高め、次世代の担い手を確保し続けることは、「人間が人間らしい生活を送るため」の土木の使命を果たすことである。タスクフォースで検討・議論した内容は、これで終わりではなく、これから始まります。

